

第18 交通事故事件捜査

1 交通特殊事件

交通事故を偽装した保険金詐欺事件、運転免許証の不正取得事件、文書の偽変造事件及び事業活動から派生する自動車の使用者の義務違反事件等交通社会に潜在する悪質知能犯罪の検挙を重点とした捜査を推進した。

その結果は、次表のとおりである。

(1) 交通特殊事件等の検挙状況

罪 種 別	令和5年
交通保険金詐欺事件	7件
自動車の使用者の義務違反事件	46件
犯人隠避事件	12件
文書偽(変)造事件	17件
その他	249件
計	331件

注 その他(道路交通法違反教唆等事件・運転免許証不正取得事件など)

(2) 主要事件の検挙事例

○ 運送会社の運行管理者らによる組織的な道路交通法違反(過積載運転下命・同両罰)事件

所 属	高速道路交通警察隊及び交通捜査課
事件の概要	一般貨物自動車運送事業を営む会社の運行管理者と同社長が共謀の上、会社の利益向上を目的として雇用運転手12名に対し、長期間にわたり反復継続して過積載運転を命じた道路交通法違反(積載物重量制限超過下命・同両罰)事件を検挙した。
罪 名 等	道路交通法違反(積載物重量制限超過下命・同両罰)
被疑者数等	被疑者 4人

○ 食品流通を背景とした組織的な貨物自動車運送事業法違反(無許可経営)及び同幫助事件

所 属	粕屋警察署、交通機動隊及び交通捜査課
事件の概要	国の許可なく水産会社の依頼を受けて白ナンバーのトラックでアサリを有償で運送していたトラック運転手5人を、貨物自動車運送事業法違反(無許可経営)で逮捕・検挙するとともに、無許可であることを知りながら運送を依頼していた仲介業者3人についても、幫助罪を適用し検挙した。
罪 名 等	貨物自動車運送事業法違反(無許可経営)及び同幫助
被疑者数等	被疑者 8人

第18 交通事故事件捜査

2 ひき逃げ・不申告事件

注1 「ひき逃げ事件」とは、道路交通法第72条第1項前段の救護措置義務違反に係る交通事故をいう。

2 「不申告事件」とは、道路交通法第72条第1項後段の報告義務違反に係る交通事故をいう。

(1) ひき逃げ・不申告事件発生・検挙状況等の年別推移

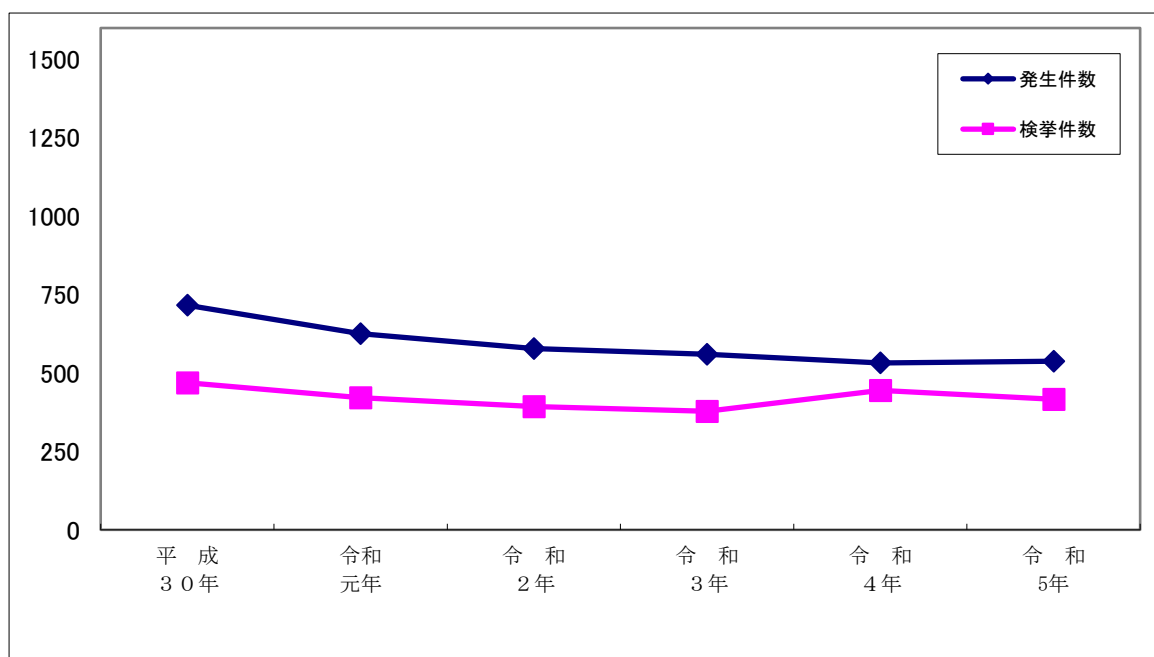
区 分	発生件数(件)			死亡ひき逃げ件数(件)			検挙件数(件)		
		対全事故 比率	指数		対全死亡 事故比率	指数		検挙率	指数
平成元年	1,216 (400)	3.4%	100	16	4.3%	100	1,062 (246)	87.3% (61.5%)	100
2年	1,032 (349)	3.1%	85	21	5.4%	131	882 (199)	85.5% (57.0%)	83
3年	1,025 (376)	3.0%	84	15	4.0%	94	879 (230)	85.8% (61.2%)	83
4年	900 (415)	2.5%	74	18	4.8%	113	729 (268)	81.0% (64.6%)	69
5年	734 (401)	2.0%	60	14	4.2%	88	533 (220)	72.6% (54.9%)	50
6年	727 (408)	1.9%	60	24	6.2%	150	521 (235)	71.7% (57.6%)	49
7年	675 (358)	1.7%	56	18	4.8%	113	488 (202)	72.3% (56.4%)	46
8年	803 (476)	1.9%	66	23	6.6%	144	474 (217)	59.0% (45.6%)	45
9年	877 (532)	1.9%	72	17	5.1%	106	494 (215)	56.3% (40.4%)	47
10年	1,073 (686)	2.2%	88	18	5.6%	113	500 (239)	46.6% (34.8%)	47
11年	895 (490)	1.8%	74	16	5.2%	100	481 (206)	53.7% (42.0%)	45
12年	976 (492)	1.9%	80	12	4.1%	75	532 (216)	54.5% (43.9%)	50
13年	942 (482)	1.9%	77	15	4.7%	94	508 (162)	53.9% (33.6%)	48
14年	951 (576)	1.9%	78	15	4.9%	94	544 (229)	57.2% (39.8%)	51
15年	1,493 (997)	2.9%	123	13	4.3%	81	587 (292)	39.3% (29.3%)	55
16年	1,694 (1,155)	3.3%	139	12	5.0%	75	544 (269)	32.1% (23.3%)	51
17年	1,976 (1,251)	3.8%	163	11	4.6%	69	691 (372)	35.0% (29.7%)	65
18年	1,860 (1,095)	3.7%	153	14	6.0%	88	741 (348)	39.8% (31.8%)	70
19年	1,427 (677)	3.1%	117	11	5.6%	69	697 (237)	48.8% (35.0%)	66
20年	1,479 (564)	3.3%	122	5	2.6%	31	756 (197)	51.1% (34.9%)	71
21年	1,267 (320)	2.9%	104	7	3.7%	44	595 (129)	47.0% (40.3%)	56
22年	1,151 (292)	2.6%	95	6	3.7%	38	589 (123)	51.2% (42.1%)	55
23年	1,153 (258)	2.7%	95	3	2.0%	19	548 (117)	47.5% (45.3%)	52
24年	1,068 (240)	2.5%	88	5	3.0%	31	489 (121)	45.8% (50.4%)	46
25年	1,067 (241)	2.4%	88	6	2.5%	38	538 (150)	50.4% (62.2%)	51
26年	982 (186)	2.4%	81	0	0.0%	0	492 (103)	50.1% (55.4%)	46
27年	913 (312)	2.3%	75	5	3.4%	31	494 (160)	54.1% (51.3%)	47
28年	890 (350)	2.4%	73	6	4.4%	38	490 (175)	55.1% (50.0%)	46
29年	880 (326)	2.5%	72	5	3.6%	31	546 (193)	62.0% (59.2%)	51
30年	716 (255)	2.3%	59	8	6.0%	50	469 (178)	65.5% (69.8%)	44
令和元年	625 (236)	2.3%	51	4	4.3%	25	421 (165)	67.4% (69.9%)	40
令和2年	578 (262)	2.7%	48	2	2.2%	13	393 (179)	68.0% (68.3%)	37
令和3年	560 (230)	2.8%	46	5	5.1%	31	378 (159)	67.5% (69.1%)	36
令和4年	532 (241)	2.7%	44	1	1.4%	6	445 (189)	83.6% (78.4%)	42
令和5年	537 (230)	2.7%	44	2	1.9%	13	416 (178)	77.5% (77.4%)	39

注1 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

2 「指数」は、平成元年の各件数を100とする。

第18 交通事故事件捜査

(2) 過去5年のひき逃げ・不申告事件発生・検挙状況



区 分	平 成 30年	令和 元年	令 和 2年	令 和 3年	令 和 4年	令 和 5年	
発生件数	716 (255)	625 (236)	578 (262)	560 (230)	532 (241)	537 (230)	
	指数	100	87	81	78	74	75
	死亡ひき逃げ件数	8	4	2	5	1	2
対全事故比率	2.3%	2.3%	2.7%	2.8%	2.7%	2.7%	
検挙件数	469 (178)	421 (165)	393 (179)	378 (159)	445 (189)	416 (178)	
検挙率	65.5% (69.8%)	67.4% (69.9%)	68.0% (68.3%)	67.5% (69.1%)	83.6% (78.4%)	77.5% (77.4%)	

注1 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

2 「指数」は、平成30年の各件数を100とする。

第18 交通事故事件捜査

(3) 令和5年中のひき逃げ・不申告事件

ア ひき逃げ・不申告事件の発生・検挙状況

ひき逃げ・不申告事件の発生件数は537件で、前年に比べ5件(0.9%)増加した。
検挙件数は416件で、検挙率は、77.5%と前年に比べ6.1ポイント減少した。

○ 令和5年中のひき逃げ・不申告事件の発生・検挙状況

区 分	発生件数	検挙件数	検挙率
死 亡 事 故	3 (2)	4 (3)	133.3% (150.0%)
重 傷 事 故	18 (12)	15 (11)	83.3% (91.7%)
軽 傷 事 故	516 (216)	397 (164)	76.9% (75.9%)
合 計	537 (230)	416 (178)	77.5% (77.4%)

注 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

○ ひき逃げ・不申告事件の前年比

区 分		発 生			検 挙		
		令和5年	前年比	増減率	令和5年	検挙率	前年比 (ポイント)
ひき逃げ	死 亡	2	+1	+100.0%	3	150.0%	+150.0
	重 傷	12	-1	-7.7%	11	91.7%	-0.6
	軽 傷	216	-11	-4.8%	164	75.9%	-2.1
	計	230	-11	-4.6%	178	77.4%	-1.0
不申告	死 亡	1	+1	#DIV/0!	1	100.0%	+100.0
	重 傷	6	±0	±0.0%	4	66.7%	-16.6
	軽 傷	300	+15	+5.3%	233	77.7%	-10.4
	計	307	+16	+5.5%	238	77.5%	-10.5
合 計	死 亡	3	+2	+200.0%	4	133.3%	+133.3
	重 傷	18	-1	-5.3%	15	83.3%	-6.2
	軽 傷	516	+4	+0.8%	397	76.9%	-6.7
	計	537	+5	+0.9%	416	77.5%	-6.1

第18 交通事故事件捜査

イ 令和5年中のひき逃げ事件

注 構成率については四捨五入のため、各項目の合計は必ずしも100%とは限らない。

(ア) ひき逃げ事件の発生状況

○ 時間別発生状況

区 分		午 前						午 後						計
時 間 帯		00～02時	02～04時	04～06時	06～08時	08～10時	10～12時	12～14時	14～16時	16～18時	18～20時	20～22時	22～24時	
発生件数														
合 計		8	3	7	27	32	10	21	23	28	38	15	18	230
構 成 率		3.5%	1.3%	3.0%	11.7%	13.9%	4.3%	9.1%	10.0%	12.2%	16.5%	6.5%	7.8%	100.0%
内 訳	死 亡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	重 傷	1	0	2	3	1	0	0	1	0	1	0	3	12
	軽 傷	7	3	5	24	31	10	20	22	28	37	14	15	216

(イ) ひき逃げ事件検挙の端緒等

ひき逃げ事件検挙の端緒は、「検索」などの警察活動によるものが80件(44.9%)、「目撃者の通報」などの民間協力によるものが98件(55.1%)であった。
ひき逃げ事件の逃走動機は、「被害者の被害が大したことないと思った」「事故を起こしたことに半信半疑であった」「逃げてしまえば分からないと思ったから」の順であった。

○ 検挙の端緒別状況

端緒別 区分	警 察 活 動						民 間 協 力					合 計
	追 跡・ 検問・ 職質	聞 き 込 み	検 査 索	現 場 の 遺 留 品 等	そ の 他	小 計	目 撃 者 の 通 報	目 撃 者 等 の 追 跡	被 害 者 等 の 申 告	そ の 他	小 計	
件 数	10	5	17	2	46	80	46	14	10	28	98	178
構 成 率	5.6%	2.8%	9.6%	1.1%	25.8%	44.9%	25.8%	7.9%	5.6%	15.7%	55.1%	100.0%

注 警察活動の「その他」とは、防犯カメラ映像解析など、民間協力の「その他」とは防犯カメラ映像の提供など。

○ ひき逃げ事件の逃走動機

・被害者の被害が大したことないと思ったから	14.0%
・事故を起こしたことに半信半疑であった	12.9%
・逃げてしまえば分からないと思ったから	9.6%
・ひき逃げ・あて逃げの事実否認	9.6%
・その他	53.9%

注 「その他」とは、無免許運転中であった、飲酒運転であったからなど。

FUKUOKA POLICE

70th

ANNIVERSARY

